

謹賀新年!

—新年のご挨拶—

A Happy New Year! Wish you the compliments of the season.

マガジン編集部からの新年のご挨拶と毎年恒例「忘年会演説録」、西村先生からのお言葉です!

New Year's greeting from Lab. Magazine Editors, and Prof. Nishimura's Speech at the year-end party of 2010.



text_yabuki

HAPPY NEW YEAR 2011

Wish you all happiness,
health and success in
your life.

Lumbini Project Members



From Lumbini, the Lord Buddha's Birthplace.

▲ルンビニ PJ メンバーから届いた年賀状

新年、明けましておめでとうございます。本年も都市デザイン研究室マガジンをよろしくお願ひ致します。昨年は研究室から巣立つ人、新たに入る人がめまぐるしく入れ替わる年であり、また多数の受賞もあり、それぞれに充実していた年であったと思います。本年も研究にプロジェクトに、良い成果の得られる年になるよう頑張りましょう! さて、年の初めは毎年恒例「忘年会演説録」から!

忘年会演説録

「日々が修行であり、研鑽である。」 教授 西村幸夫

人生は一度しかない。しかし、都市を研究しているという事はたくさんの人生を知らなければならない。それが出来るのか、という問題がある。プランナーは何万、何千という人の分かって計画しなければならない。その問題を解く鍵はやはりイメージーション。自分がどれだけ他の人の人生を生きた様に思えるか。様々な所へ行き、様々な人と接点を持つ事の積み重ね。自分の世界にいると自分の世界でしかものが見られない。しかし世の中には様々な人がいる。夜、電車に乗っていると街にたくさんの光が見える。光が見えるという事は家庭が有り、全ての家庭で違うドラマが演じられている。それをプランナーとして、そこに大事さを感じられるか、その感受性に我々の可能性は関わっている。そして日々の接点の中で鍛えて行かなければならない。日々は修行であり、研鑽である。それはすばらしい事

である。いろんな人に会い、同じ言葉をしゃべっていても、それぞれに思いがこもっている。通じないという事も含めて、自分のものとして認知しなければならない。全体の営みがプランナーを作っていく。教育がつくるわけでない。そういう大事さを、感受性を豊かにして、自分を磨いて、相手に伝わる言葉を吐ける様になっていく事や、そんな強さを持っていく事がトレーニングであって、通り一遍の教育では出来ない。それはプロジェクトや日々の活動の中で、磨かれていく。日々が修行であり、皆その中で、力や自信をつけていく。そして人の悲しみや思いを分かる様になっていく。今、そういう過程にあると思うと、すばらしいと思う。20代でそういう体験が出来るのはすばらしい事である。いろんな街を見て、いろんな人を知り、豊かな人間になって欲しいと思っている。頑張りましょう、来年も。

社会科見学部! 地域寄席、やねせん亭!

Experience the Japanese popular culture, Rakugo.



text_abe

新年最初の社会科見学、今回は若手噺家による地域寄席、やねせん亭に行きました!

1月7日(金)夜、根津の不忍通りふれあい館において新春寄席・第13回「やねせん亭」が開催されるということで足を運んだ。「やねせん亭」は地元根付いた活動をされていることから地元の方々の来場も多く、満員御礼。仲入り後には質問タイムも設けられ、来場者との交流も図られており、噺家さんが身近に感じられる工夫がされていた。寄席は都市計画家石川栄耀が学生時代から通い、晩年には「目白文化会」を結成し、毎月文化寄席を開催されたことを踏まえると、日本人としてのみならず、都市計画を学ぶ者として、経験しておくべき教養であるように思われた。落語は

噺、話術、小道具これらを通じてある空間を演出し、何気ない人々の生活や人情の機微を、時空を超えて伝え、表現する総合芸術であるように思う。たった一人で何役をも演じ、我々の前に生き生きとした空間を描き出してくれる。これは我々に求められる様々な人々の生活をイメージするというに通じることではないだろうかと感じた。落語の奥深さに魅了されたそんな人日の夜。おあとがよろしいようで...

留学生から見た寄席の感想

M2 李 璠

始めは言葉の問題があるかと思いましたが、集中して聞くと半分以上理解でき、面白かったです。



▲今回出演した噺家の皆さん



▲地域の人で大盛況だった会場

いざ、怒濤の年度末へ！

Let's Go For the Climax!!

佳境の年度末へ向け、年末年始も寒さに負けず
各プロジェクトが現地でのワークショップや
モニター調査など精力的に活動しました！

田村 TAMURA-project プロジェクト

M1 高見 亮介

12月11日(土)、12日(日)にかけて福島県田村市都路町にて、第4回ワークショップと空間調査を行いました。ワークショップでは前回の調査結果を踏まえて、再考した「まちづくり基本方針」と方針を受けた「具体的な7つのまちづくりアイデア」を提案・議論しました。住民の方の視点から、より詳細なアイデアや実際の考え方などの数多くの意見があがりました。

今回のワークショップで得た意見やアイデアから提案のイメージを膨らませ、より一層具体的で都路らしい提案へと発展させていきます。

空間調査では各提案の対象となる空間を現状の使われ方や、敷地や建築物の詳細なスケールを把握しました。各提案のデザインをイメージするだけでなく、エリアの全体プランを思い描きながら調査を行いました。2月22日(火)の次回の訪田村が最終報告会であり、1年間の調査研究の成果が発揮できるようにまとめていきます。



▲ カードに意見を書いてもらい、それを基に議論



▲ 国道 288 号沿いの空間調査

鞆 TOMO-project プロジェクト

M1 西村 裕美

12月14日(火)にヨルトモ報告会を行いました。会には、イベント当日にのみみせひろばに出店してくださった空き家再生店舗の方々をはじめ、地元のみなさん20人ほどが足を運んでくださいました。今年度のヨルトモの結果と、ヨルトモ2008-2010の3年間のヨルトモの成果として、鞆の夜の魅力の大きさを証明できたことやそれをアピールする手法を得られたこと、地元の方々と協働することができたことを報告しました。報告後には、来年度の活動に向けて地元のみなさんと、「これからのまちづくりを考える上で重要なこと」を議題に、ミニワークショップを行いました。

普段から感じている鞆の抱える課題やまちのあり方、まちづくりへの想いなどについて多くの意見が出ました。学生や地元の方々とこれらを共有することができ、大変有意義な場となりました。今回のワークショップで得られた意見を来年度の活動にしっかりとつなげていきたいです。



▲ ワークショップ(ヨルトモ報告会)の様子



▲ 参加してくださった皆さんとの交流

佐原 SAWARA-project プロジェクト

M1 吉田 健一郎

1月8日(土)「佐原の町を普通の人はどのように歩き観光するのか」を調べるため、6名の方々に協力をしていただき、モニター調査を行いました。12月に引き続き2回目の今回は2人1組で歩いてもらい、地図の取得の段階から全ての行動を自由に行ってもらいました。一般の観光客は伝建地区部分である小野川周辺を歩くだけで終わってしまうだろうと予想していましたが、どの方も想像以上に歴史的町並みに興味を持ち、広範囲で町中を歩いていたという結果になり、私たちも驚いています。

実験の間、私達自身も下新町の南に位置する石尊山の中を歩き、自然が溢れる道の魅力を体感してきました。調査を通じ、佐原はもっと広く歩ける町であることを再認識でき、眠っている魅力をもっと多くの人々に知ってもらえるような取り組みが必要であると改めて考させられる一日となりました。



▲ 自然の真ただ中を歩く！



▲ 山を抜けると素敵なお寺

information

1月の予定

- 1月11日 2010年度第13回研究室会議@8階会議室
- 1月13日 2010年度第14回研究室会議@144講義室
- 1月18日 鹿児島PJ現地最終報告会
- 1月24日 2010年度第15回研究室会議@8階会議室
- 1月26日 2010年度第16回研究室会議@144講義室
- 1月27日 2010年度第17回研究室会議@144講義室

✂ 編集後記

矢吹 剣一

あけましておめでとうございます。本年も都市デザイン研究室マガジンのご愛読とご協力、よろしくお願い申し上げます。昨年は本研究室に入り、新しい環境の中でなんとかプロジェクトや研究についていけたかなと思います。今年も頑張ります。さて、年が明けたと思うもつかの間、いよいよM2の皆さんは修士論文の追い込み、M1はプロジェクトの報告書、就職活動と、怒濤の年度末に差し掛かりつつあります。来年の今頃は修士論文に追われると思うと気が引き締まります。計画的に準備しておきたいものです。忙しくなりますが、体調管理に気をつけつつ、地道に邁進していきたいです。